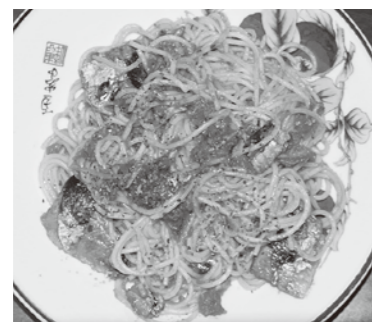


わだいの



▲魚の下ごしらえはお手のもの



▲でき上がった“サンマのパスタ”

女の料理教室 新和

プロの味をわが家の献立に！

10月12日、中田地区振興会主催の「女の料理教室」が中田公民館で開かれ、地区住民13人が参加しました。これは、プロの味を学ぶとともに、家庭での献立を増やすことを目的に平成21年から開催しているもので、今回で6回目。この日の献立は、旬のサンマを使った「サンマのパスタ」。参加者は講師の説明を受けながら、サンマの下ごしらえやめんをゆでる作業など、なれた手つきで取り組んでいました。

その後、でき上がった料理を全員で試食。参加者は、「魚を使ったパスタは珍しい」などと話しながら、料理に舌鼓を打っていました。

瀬戸小学校の児童が宮城県東松島市に白米などを送る 本渡

天草の米を食べて元気になって

東日本大震災で被災した人たちを元気づけようと10月20日、瀬戸小学校の児童などが栽培・収穫した白米240kgのほか、手書きのメッセージなどを宮城県東松島市内の10の小学校に送りました。この取り組みは、同校と同校のPTAが地元住民の協力を得て実施したもの。児童たちは、3月に保護者が田植えをした後、かかし作りや草引き、8月には稲刈りやかけ干し作業などを行いました。参加した児童は、「これを食べて元気になってほしい」と笑顔で話していました。



▲“元気になって”の気持ちを込めて手を振る6年生の児童



▲元気にスタートを切る園児たち

栖本町民体育祭 栖本

町民の連帯意識の向上を目指して

10月9日、町内12地区対抗の「栖本町民体育祭」が栖本総合グラウンドで開かれ、約1,000人が参加しました。これは、スポーツを通じて町民の連帯意識の向上を図ることなどを目的に、毎年開催されているもの。この日は、開会式で保育園児が踊りを披露した後、園児による徒競争のほか綱引きや大縄跳びなどが実施され、選手たちは熱戦を繰り広げていました。また、大会の締めくくりには地区対抗リレーが行われ、地区の名誉をかけた戦いに会場は盛り上がっていました。

地域づくりインターン事業 五和

若者の視点でまちづくり策を提案

9月14日から同27日にかけて、東京都近郊の大学でまちづくりを学んでいる学生7人が、五和町内で農・漁業体験やフィールドワーク（野外研修）などをする「地域づくりインターン事業」が行われました。

これは、市が五和まちづくり協議会と連携して、若者の視点で地域における課題の解決策を提案してもらおうと実施したもの。学生らは、同町内の各地区振興会が企画した日程に沿って、みかんの収穫体験、地元の小学生や地域住民との交流などに参加。その後、同26日には報告会が開かれ、学生たちは“空き家の活用”や“大学の分校誘致”などをテーマにした提案を発表しました。参加した学生は、「また必ず天草の皆さんに会いに来たい」と笑顔で話していました。



▲児童と地域の人との交流授業に参加する学生（右）



▲報告を行う学生

うるめイワシ・マイワシが豊漁 牛深

漁業の活性化に期待！

9月から10月にかけて、牛深町の後浜漁港に水揚げされているイワシが豊漁です。1日平均で約200tの水揚げがあり、これは昨年比べて5倍増の量。このイワシは、主に雑節の原料として出荷される“うるめイワシ”や“マイワシ”です。最盛期の昭和24年ごろは、全国1・2位を誇るなど活況でしたが、近年は不漁が続いていました。天草漁協・牛深総合支所長の桂田眞吾さんは、「従来に比べるとまだ少ないが、これをきっかけに牛深の漁業者や水産加工業者の活性化につながれば」と話していました。



▲水揚げ作業のようす



▲飛ぶように売れたバナナのたたき売り

下津浦彼岸花ウォーキング 有明

彼岸花を眺めながら秋を満喫

9月23日、「下津浦彼岸花ウォーキング」が下津浦グラウンドを発着とするコースで開かれました。これは、下津浦地区振興会が、約20年前から住民らの手によって下津浦川沿いに植えられてきた彼岸花を、多くの皆さんに楽しんでもらおうと初めて開催したもの。この日は絶好の秋晴れの中、参加者は“彼岸花ロード”と名付けられた約1kmを含む5kmの道のりを、思いおもいのペースで満喫。また、ゴール後は温かいだご汁がふるまわれたほか、バナナのたたき売りなどの催しも行われ大盛況でした。